

届け 世界の果てまでも

令和3年5月28日

No. 13

文責 校長 飯久保一男

掃除に学ぶ

子どもたちの純粋な疑問の一つに「なぜ学校では自分たちで掃除をするの？」があります。子どもにこう聞かれたらどう答えますか。「それは当たり前じゃないの」「働くことは大切でしょ」「自分たちが汚したところは自分たちできれいにすべきでしょ」などと言っても納得しない子どももいるかもしれません。逆に「お父さんやお母さんの会社は誰が掃除をするの？」と聞かれて答えに困ったという方もいるかもしれません。

私の近所に「トイレ掃除に学ぶ会」の元山梨県代表のNさんがいます。ときどき一緒にお酒も飲む仲です。Nさんと話していて、おもしろかった話にトイレ掃除に学ぶ会の話がありました。

ある高校のトイレ掃除をさせてもらったことがある。その高校はいわゆる「荒れた」学校で、不良の生徒の多い学校だったが、その高校生全員が参加してトイレ掃除をした。準備体操から始めたが、そんな高校生がまじめに準備体操をするはずはなく、ちゃんと体操をしなさい、と注意をする先生に「そんなにやりたきゃ、先公てめえがやれ！」と口汚くののしっていた。ところが、その高校生が、トイレ掃除を嫌々ながらやっていくうちに、きれいになることに喜びを感じていき、トイレ掃除が終わったあとに言った言葉が「オレがきれいにしたこのトイレで絶対にたばこは吸わせないぞ！」だった。



Nさんは、掃除はその場所のみがくだけでなく、自分の心のみがくものだと言います。トイレ掃除が終わったあと、きれいになったトイレに向かい、お礼を言うのだそうです。「トイレを掃除してあげている」ではなく、「掃除をさせていただきありがとうございます」という謙虚な気持ちを表すとのこと。このときに感じる達成感はとても心地よいとNさんは言っていました。

私は以前に研修で、日本を美しくする会（＝日本トイレ掃除に学ぶ会）の会長である鍵山秀三郎さんの講演を聞いたことがあります。

鍵山さんは、ゴミが出されている収集場を見つけると、そのゴミ袋を開き、詰められる袋に詰められるだけ詰め、袋を余らせて持ち帰ってくる。それを洗って乾かして貯めておく。

「掃除に学ぶ会」で、新宿駅の周りをきれいにしようと計画を立てたところ、新宿区役所から「区役所としても協力したい、何かやることはないか、ゴミ袋を何枚用意すればいいか。」と言ってきた。鍵山さんは「新しいごみ袋など必要ない。何の協力もいらぬ。ゴミ袋も十分にある。」と答えた。

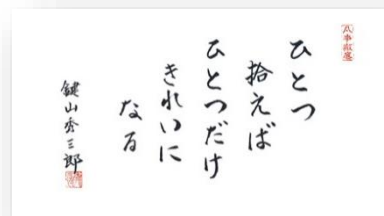
鍵山さんはその講演を

「中途半端にやることは、やらないのと同じです。

『そのうち、まとめて、一気に』これは、できない人の共通点です。

『毎日、少しでも、できるだけ、私が』と考え、40年が経ちました。」

と締めくくりました。



トイレ掃除に学ぶ会の取り組みに参加された方の感想がインターネットで紹介されていました。

小学校でのトイレ掃除に臨んだ。まず、驚いたことは掃除をするときに使用する道具の多さだ。それらをきれいに並べ、あらゆる手段でトイレを磨いていくのである。ただ柄の付いたたわしでゴシゴシ擦るだけと考えていた私にとって、大きな衝撃だった。そして、使ったものは元の場所にきちんと戻す。小さい子どもが親によく言われる言葉のひとつであり、当たり前のことだが、その簡単なことが日ごろできているだろうか。そういった小さなことをできていない人が今多いのではないだろうか。

いよいよ、一つのトイレを割り当てられ、みがいていく。「トイレに手を入れる」「顔を近づける」ということ自体に抵抗があった。案の定そんな姿勢では、汚れはきれいには落ちない。ところが、知らず知らずのうちにトイレに顔を近づけ、もっときれいになる、もっときれいにしてみせる、という気持ちが芽ばえていた。そのうち無駄な動きもなくなり、汚れを落とすコツをだんだんとつかんで、夢中になっていた。

終わった後、きれいになったトイレに向かい、お礼を言う。何ともトイレにお礼なんて奇妙なことだが、「トイレを掃除してあげている」ではなく「掃除をさせてくれてありがとう」という謙虚な気持ちを表す。このとき、感じた達成感とはとても心地よかった。このきれいになったトイレを小学校の子どもたちが気持ちよく使ってくれるだろうと満足した気持ちにもなれた。

年齢、性別、職業、あらゆる人たちが、自分が使わないトイレを掃除する。なんとも奇妙な会だと、感想発表のときにおっしゃっている方がいたが、皆すがすがしい顔をしている人たちばかりだった。

小学校の子どもたちとお母さん方も参加していた。「自分の息子が生まれて初めてトイレを一生懸命掃除している姿を見て、そして『楽しかった』と話していたことに対して感動した」というお母さんもいた。感動し合えるということは、感動することのできるきれいな心をもっているからであり、トイレ掃除は本当に心みがきであるということを実感した瞬間だった。

10年ほど前に「トイレの神様」という歌がはやったのをご存知でしょうか。

♪トイレには それはそれはキレイな女神様がいるんやで

だから毎日キレイにしたら 女神様みたいにべっぴんさんになれるんやで♪



学校を構成する集団の中で、一番のもとになるのは学級です。

その学級を集団として高めるためには授業が一番大切です。私はまず、授業が最優先だと考えます。授業は教師が主導してやっていて、学級の活動は自分たちで考えてやっごらんといってもできるものではありません。授業で子どもたちが主体的に学ぶからこそ、学級の活動も主体的にできると考えています。教師によっては、けじめを身に付けるなどの生活指導や学習規律の指導を先にしなければ授業が成り立たないという考えもあります。授業が先か、生活指導や規律の指導が先か…、「ニワトリが先かタマゴが先か」の議論になりそうですが、1日の中で最も時間を割く授業が大切であることは教師たるもの誰もが一致します。

授業とともに、様々な活動がありますが、その中でも、毎日の活動「給食」や「掃除」などは、その意味を子どもたちに考えさせ、目的をもって、主体的に取り組ませたい活動です。「掃除から学ぶ」「掃除に学ぶ」学級は集団として高まっていく学級だと思います。

…コロナ禍において「給食」は、子どもたちの主体性に任せられない面がほとんどになってしまっていることが残念です。

私たち一人一人が、自分の玄関の前を掃除するだけで
全世界はきれいになるでしょう。

マザー・テレサ

